

WHAT IS KAIR?

東西に鈴鹿川が流れ、
緑の山がそびえる徳島県・神山町。
美しい自然に囲まれた空間と空気。
ここでは個性豊かな人々が生活を営み、
国内外のアーティストたちが日々制作に
励んでいます。
神山アーティスト・イン・レジデンスは、
町の人から選ばれたアーティスト
達が約2ヶ月間滞在し、地域の人々と
ふれあひながら作品制作を行う
プログラムです。
神山でしか出会えないアート作品に
触れてみませんか。

アーティスト滞在期間

2026年8月27日～11月3日

レジデンス期間中のイベント

OPEN STUDIO オープンアトリエ

9月27日 日
KAIR2026参加アーティストのアトリエを公開。
3組のアトリエを一巡しツアーで回ります。
10時～13時～（集合時間12時50分）
集合場所：神山町農村環境改善センター
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132

ART TOUR アートツアー

10月25日 日
参加アーティストと共に作品を巡るツアー。
様々な場所を巡りますので、歩きやすい靴で
お越しください。どうぞお見逃しなく！
10時～13時～（集合時間12時50分）
集合場所：神山町農村環境改善センター
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132

EXHIBITION 作品展示会

10月26日 日～11月3日 水曜
11月7日 土曜 8日 日
10時～12時（平日）、10時～16時（土日祝）
開催場所：劇場空間 大黒山 館

*参加アーティストの作品を展示している作品展示会を開催いたします。
展示会場は劇場空間にて「アート・ショップ」も実施いたします。
*展示会場につきましては、ホームページにて随時ご案内いたします。

お問い合わせ

神山アーティスト・イン・レジデンス
実行委員会 (KAIR) グリーンバレー事務局
771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132
神山町農村環境改善センター内

TEL 088-676-1178
E-MAIL kair@in-kamiyama.jp

[JP] www.in-kamiyama.jp/art
こちらのURLから、イベント等の最新情報やKAIR2026
の詳細をご覧ください。

[EN] www.in-kamiyama.jp/en/art
Please visit our website for English
information



What's happening
at KAIR?



Discover KAIR, JPN

観覧・参加無料 ご寄付歓迎！
KAIRでは、展覧会、オープンアトリエ、アートツアーなどを無料で開催し、さまざまな人がアートに触れられる機会をのびています。
こうした活動もこれからも続けていくため、KAIRの活動を応援して下さる方からのご寄付をお願いしています。

各会場にドネーションボックスを設置しています。

オンラインのご寄付はこちらから



主催 神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会
協賛 神山町、とくしま文化活動推進事業
共賛 認定NPO法人グリーンバレー

神山

アーティスト
イン
レジデンス

KAMIYAMA
ARTIST IN
RESIDENCE
2026

JOLENE
MOK
BLANE DE
ST. CROIX
TETSURO
KANO

ジョリー・モック

ジョリー・モックは香港生まれ、香港育ちの実験的アーティスト。映像と写真を含む芸術活動は、2013年にデューク大学大学院美術・ドキュメンタリー・アート専攻でM.F.A. (美術修士) を取得した。2006年以降、作品を世界各地で発表し、2011年からは特定の拠点を持たず、各地のアーティスト・レジデンスに継続的に参加しながら活動を行っている。ジョリー・モックの制作は、アナログな手法を通して、人間と自然との関係を捉え直すことを主眼としている。野草や植物、菌類を採集すること、映像や写真を制作することは、彼女の制作において一つの営みとして結びついている。

近年は、短編35ミリが有線セルロイドフィルムというメディアを通して、新たなエコロジーの視点を提示している。実験的映像作家として、フィルムを自ら手作業で裁断する工程を制作の中心に加え、植物や菌類を用いた実験技法を取り入れることで、その可能性を広げている。撮影、映像制作、そして研究室でのフィルム開発は、それぞれ独立した工程ではなく、互いに結びつながら作品を形作る。一連の制作プロセスとなっている。

JOLENE MOK

Hong Kong

Jolene Mok was born and raised in Hong Kong. An experimental artist, she uses film and photography as her primary creative platforms. She earned her M.F.A. in Experimental & Documentary Arts at Duke University in 2013. Since 2006, Jolene's works have been shown worldwide. Jolene doesn't base anywhere as she has been on itinerant since 2011 taking part in artist-in-residency programs continuously. Jolene's core interest lies in rethinking her relationship with the natural world through art in an analogue format. The connection between foraging and image-making is deeply intertwined in her practice. She aims to explore new ecological perspectives within the often-overlooked medium of collaged film. As an experimental filmmaker, hand-processing film is essential to her work, and she seeks to innovate by incorporating plant- and fungi-based film development methods. Overall, foraging, filmmaking, and photo laboratory work are foundational practices that are interconnected rather than separate concepts in her latest creative pursuits.



植物と自然の化学実験 Plant-Based Developer Experiments (2020)

ブレイン・デ・セント・クロイ

アメリカ/アイルランド

私の制作はランドアートの常識に反しなが、そのあり方をもつての道し。地球の作家による従来の表現、経験やリサーチ。社会との関わりを重視する実践へと変遷している。

初期には、風景そのものの造形や構成に関心を寄っていた。しかし、ゴビ砂漠や北極圏といった過酷な環境で調査を重ねるなかで、制作は大きな転機を迎える。こうした場所では単独で活動することは難しく、地球科学者やジャーナリスト、そしてとりわけ先住民族の知識や経験を受け継ぐ人々との協働が不可欠となる。

そうした経験を通して、制作に対する考え方も変化した。一方的に知識を受け取るのではなく、互いに関わりながら学ぶこと、そして他者の物語を聴く責任を引き受けることが、現在の制作の核となっている。

現在は、最先端調査や調査結果、地域の人々へのインタビューなど、多様な分野にわたるリサーチやその制作の素材として取り入れている。私の制作の根拠となるのは、「歴史」という営みでも、データや口述の記憶、地球学や地質学、大規模な都市計画やインフラストラクチャーと置き換えることで、統計や報道だけでは捉えきれない地球環境の危機を身体的な経験へと変換する。そうすることで、感覚領域で進行する変化を、「目で見て理解できるかたち」として提示することを目指している。

BLANE DE ST. CROIX

USA/ Ireland

My methodology is rooted in, and critically expands upon, the legacy of Land Art, transforming its often solitary grandeur into a collaborative, research-driven, and publicly engaged practice. Early work focused on formal landscape concerns, but a pivotal shift occurred through immersive fieldwork in extreme environments.

Confronting sites like the Gobi Desert and the Arctic Circle necessitated deep collaboration, drawing me into partnerships with earth scientists, journalists, and, most formatively, Indigenous knowledge-keepers. These relationships reshaped my entire ethical framework, prioritizing reciprocity and narrative accountability. Over time, I developed a sustained practice where interdisciplinary research—aerial surveys, satellite imagery, community interviews—becomes the primary studio material.

This process of translation is central: converting datasets, oral histories, and geopolitical analysis into large-scale sculptural installations that render abstract global crises physically immediate and sensorially immersive, creating what I term a "visually comprehensible picture" of planetary change.



鳥居と大規模な森林のモデル Large-Scale Forest Model (2022)

狩野哲郎

生物から見た世界/自然/環境/人間とを軸としリサーチ/滞在制作を行う。また作品、インスタレーションを中心に、特に鳥という「他者の視点」をとりこみ、新たな知覚や認識的な世界への想像を促すような作品を純粋な経験、あるいは自然のストロークやとも見える。現在に生きる人間にとっての他者性や認識の方向性が注目され、遠い過去や未来の知覚や認識の世界的存在を想像させる。作品の完成形からの読解とは無関係に色彩/形態/質感は認識が繰り返されることは理想的な経験や読解から必ず通るべきだが、一見、非論理的にも思えるこの方法はいままだにない可能性を持った何かを作るための唯一の方法でもあるように思える。

Return Artist Program リターンアーティストプログラム

2017年よりスタートしたプログラム。

海外に拠点を構えるアーティストが、リサーチ/滞在制作を軸としたアートプロジェクトを実施し、滞在制作を行っている。滞在制作の中心となるのは、他者の物語を聴くこと、そして他者の物語を聴く責任を引き受けること。こうした場所では単独で活動することは難しく、地球科学者やジャーナリスト、そしてとりわけ先住民族の知識や経験を受け継ぐ人々との協働が不可欠となる。

現在は、最先端調査や調査結果、地域の人々へのインタビューなど、多様な分野にわたるリサーチやその制作の素材として取り入れている。

TETSURO KANO

Japan

Kano's research/residency production centers mainly on the world as seen through other living things' hunting/ fishing/ surveying. Through largely three-dimensional works and installations, he sometimes incorporates a bird's perspective, encouraging viewers to imagine new perceptions and a plurality of worlds. He uses a range of materials that are not simply perceived through a dichotomy of man-made/natural, machine-produced/handcrafted, concrete/abstract, or organic/inorganic, but detached from their original contexts and functions and used for their colors/shapes/textures as vector-less found objects in collages and assemblages. They could be described as pure markers without a clear purpose, or perhaps as wild structures. Present-day human values and ways of perceiving are left in limbo, leading viewers to imagine perception of distant pasts and futures, and the existence of multiple worlds. Although his method of repeatedly selecting color/shape/texture in a way that does not work backward from a predetermined completed state is somewhat removed from an ideal painting or sculpture, this seemingly illogical method is perhaps the only way to make something that does not yet exist.



鳥居と大規模な森林のモデル Large-Scale Forest Model (2022)